

第4回 PDA 中学生即興型英語ディベート全国大会
The 4th PDA Junior High School Parliamentary Debate National Competition

一般社団法人 パーラメンタリーディベート人財育成協会 (PDA)

日程：2021年3月20日(土)

会場：Zoom(オンライン)、本部：大阪府立大学

主催：一般社団法人 パーラメンタリーディベート人財育成協会 (PDA)

共催：大阪府立大学

後援：朝日新聞社、朝日中高生新聞、一般社団法人 日本英語交流連盟

助成：公益財団法人 日本財団、公益財団法人 KDDI 財団

協賛：TOEFLjunior®

【開催趣旨】

一般社団法人パーラメンタリーディベート人財育成協会(PDA)では、グローバルに活躍する人財育成の一手法として、英語での発信力、論理的思考力、幅広い知識・考え方、プレゼンテーション力、コミュニケーション力などの複数の力を効果的に訓練可能な即興型英語ディベートを推進しています。

本大会では、即興型英語ディベートの普段の練習の成果を試し、全国の高校生と議論を交わすことで、さらなる成長・学習意欲を促すことを目的とします。授業での取り組み成果を発揮できるよう、形式は授業導入可能なフォーマットです。

(参照：文部科学省助成事業 <http://englishdebate.org/debate/>)

【参加校】

- (茨城県) 清真学園中学校
- (茨城県) 東洋大学附属牛久中学校
- (栃木県) 栃木県立宇都宮東高等学校附属中学校
- (千葉県) 渋谷教育学園幕張中学校
- (千葉県) 翔凜中学校
- (東京都) 品川女子学院中等部
- (東京都) 東京都立三鷹中等教育学校
- (東京都) 筑波大学附属駒場中学校
- (東京都) 白百合学園中学校
- (神奈川県) 湘南白百合学園中学校
- (神奈川県) 浅野中学校
- (神奈川県) 聖光学院中学校

(神奈川県) 栄光学園中学校
(神奈川県) 洗足学園中学高等学校 (※欠)
(大阪府) 関西大倉中学校
(兵庫県) 神戸大学附属中等教育学校
(広島県) 広島学院中学校
(徳島県) 徳島県立城ノ内中等教育学校
(福岡県) 福岡雙葉中学校
(熊本県) 熊本県立八代中学校

20校

【タイムスケジュール】

10:00 受付
10:20 開会式
10:40 ラウンド 1
11:40 昼食交流会(11:50~12:20)
12:30 ラウンド 2
13:40 ラウンド 3
14:50 決勝進出チーム発表、決勝準備
14:55 キーノートレクチャー
15:10 決勝
15:40 表彰式、アンケート
16:00 終了

【ご挨拶】

第4回PDA中学生即興型英語ディベート全国大会は、昨年に引き続きオンラインでの開催の運びとなりました。この一年で、講義のみならず、ディベートのようなアクティブラーニング形式の学習もオンラインでの実施ノウハウが確立されてきました。急速な時代の変化に対応しながら、効果的に学んでいくことは重要であると思います。

高等学校の新学習指導要領では、2022年度から英語科の新科目「論理・表現」が掲げられ、活動としてディベートが明記されています。本大会で取り扱うディベートは、授業の50分で完結する形式であり、中学生にとって近い将来役立つ内容です。英語で発信する力のほか、様々な論題について多様な視点から考える力を鍛える一助となることを願っています。

一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会 (PDA) 代表理事

中川智皓 (大阪府立大学工学研究科・准教授)

JST 戦略的創造研究推進事業 さきがけ研究員 (兼任)

【キーノートスピーカーからのメッセージ】

即興型英語ディベート全国大会のオンライン開催おめでとうございます！

新型コロナウイルスの影響で、皆様にとってもこの1年は大変な時期だったと思います。しかし、多くの制約・制限・我慢が強いられた一方で、コロナ禍の前にはなかった様々な「新たな生活様式」を手に入れることもできました。その一つがこの「オンライン」という方法です。もちろん対面型、集合型の良さもたくさんあります。でも、世界中どこにいても繋がることのできる、こうした新たな取り組みの良さを大切にして、さらなる可能性を拡げつつ、次に繋いでいきたいですね。今しかできない素晴らしい体験をぜひオンラインで一緒に共有しましょう。

キーノートスピーカー 大阪府立大学 地域保健学域 教育福祉学類 教授
伊藤 嘉余子 氏

【論題】

R1 Japan should abolish zoos.

(日本は、動物園を廃止すべきである。)

R2 Hosting the Tokyo Olympics in the summer of 2021 will do more good than harm.

(2021年夏の東京オリンピックの開催は、害よりも利益をもたらす。)

R3 Children should choose foster parents over biological parents who cannot provide adequate food, clothing and shelter.

(子供は、適切な衣食住を提供できない実親よりも、里親を選ぶべきである。)

決勝 Online learning should be introduced in junior high schools, and students should go to school only three days a week.

(中学校では、オンライン学習を導入し、登校日を週3日にすべきである。)

【開会式】

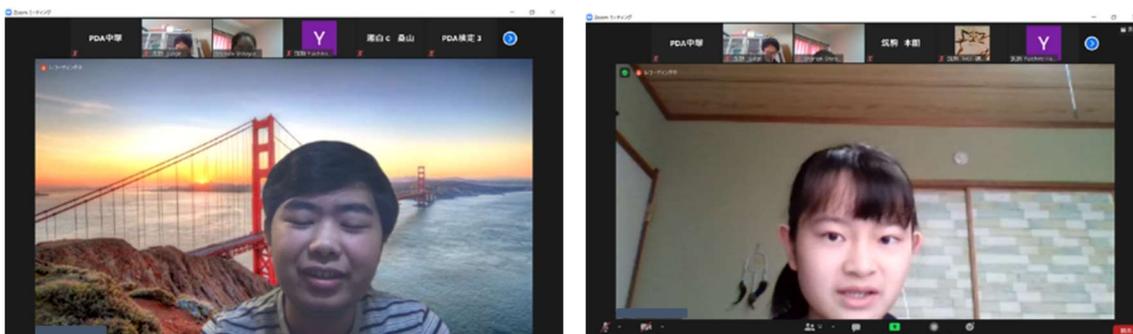
新型コロナウイルス感染症の影響を受け、第4回PDA中学生即興型英語ディベート全国大会は、前年と同様に遠隔（オンライン）で実施することとなりました。開会式がはじまりました。はじめに、中川代表理事より開会の挨拶として本大会の趣旨が話されまし



た。2022年度より高等学校の新学習指導要領では英語科の新科目「論理・表現」が掲げられ、ディベートが示されていること。また本大会で扱うディベートは実際の授業時間内（50分）で完結する形式であり、中学生にとって役立つものであります。また、コロナ以前から5年ほどかけて、各地域でのディベート交流大会、認定教育ジャッジ制度の確立、など、PDAでのディベート推進活動の紹介がありました。つづいて、本大会参加の20校が紹介されました。POI（Point of Information: ディベート中の質疑応答）を全員で練習しました。メインルームには参加者たちの大きな「POI!」のかけ声がひびきわたりました。ところどころから笑い声も聞かれ、POIを模擬することで、少し緊張がほぐれた様子でした。その後、PDA本部スタッフよりジャッジへ向けてスコア送信についての注意事項、説明がありました。

【ラウンド1】

開会式が終わり、1ラウンド目のはじまりです。論題発表のアナウンスがあると、生徒たちの緊張が画面越しに伝わります。対戦表と論題が発表されると、各チームがチームメイトと準備を開始しました。論題は、Japan should abolish zoos.（日本は、動物園を廃止すべきである。）です。動物が感じるであろうストレスや環境問題にも触れながら、動物園の是非を議論しました。ひっきりなしに相手チームからPOIも出され、1戦目から白熱したディベートとなりました。ディベートが終わるとジャッジから各生徒にフィードバックが行われました。ジャッジからは両チームともに非常に素晴らしい内容だったため、勝敗を決めるのがとても難しいです、といった感想も述べられていました。



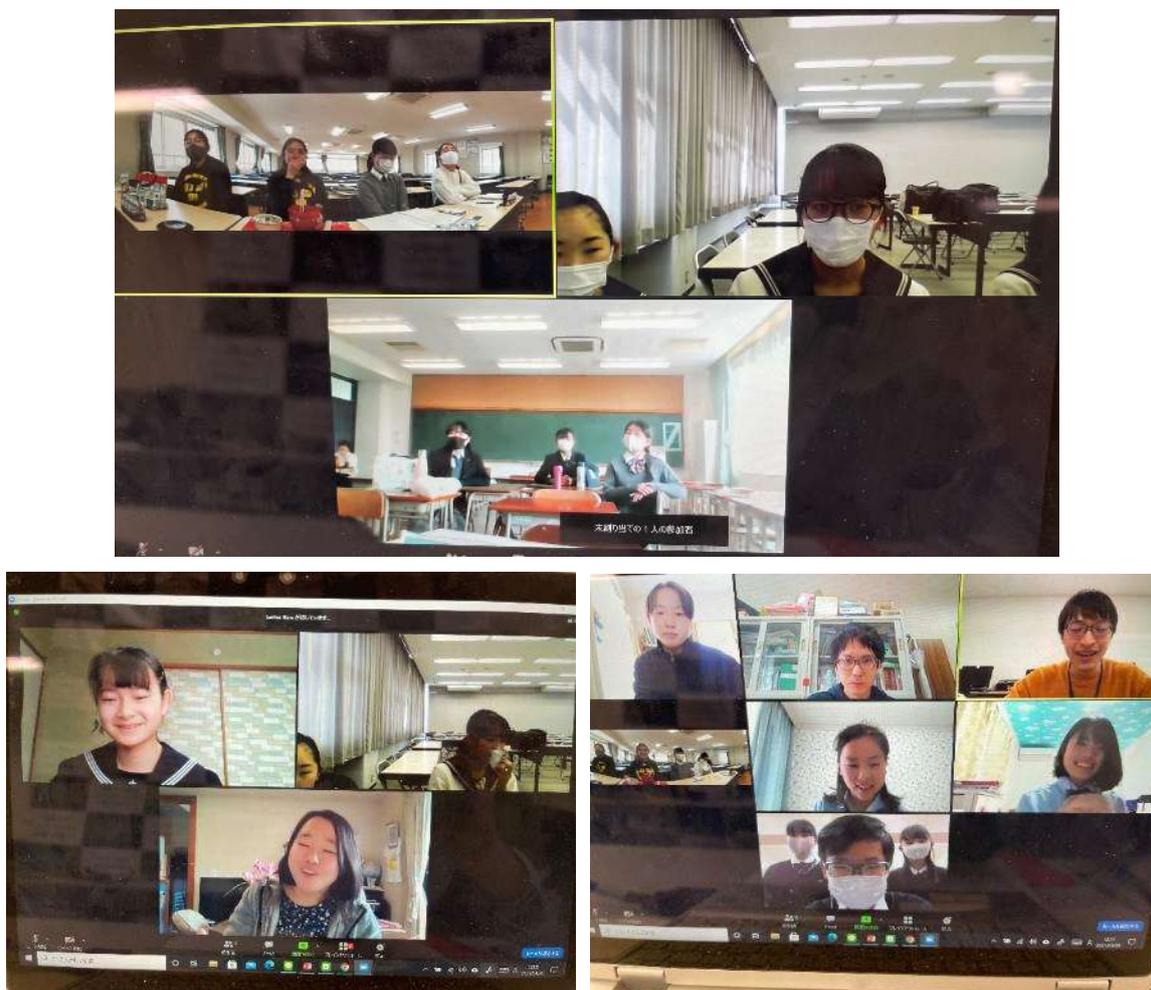
湘南白百合（神奈川）vs.筑駒（東京）



ラウンド後はジャッジから勝敗と個人コメントをもらいます

【昼食交流会】

昼食タイムです。コロナ禍のため各々で昼食をとっていただきましたが、自由にオンラインで雑談を楽しみながら、各校と交流を図りました。ラウンド1ではどのようなポイントを出したかなどをたずねてみたり、お互いの地域でのコロナ感染の状況、コロナ禍での授業形式や、普段はどのように英語ディベートを練習しているかなどを共有していました。中学1年生の生徒も参戦していることに驚いている様子や、zoomでの画像の映り具合の工夫などを気にしている様子も見られ、ラウンド中の緊張した雰囲気とはまた違った生徒たちの楽しそうな顔が印象的でした。



【ラウンド2】

2ラウンド目の論題は、Hosting the Tokyo Olympics in the summer of 2021 will do more good than harm. (2021年夏の東京オリンピックの開催は、害よりも利益をもたらす。)です。当然のように、新型コロナウイルス感染予防が争点となったディベートでした。ワクチンの有効性や、変異型ウイルスの問題点として挙げられる一方、オリンピックに出場する選手たちや、オリンピックが開催されたときの国民のモチベーションの高まりなど精神論に

も言及するなどされ、非常にバラエティに富んだ内容の議論がなされました。ジャッジからは POI がよく出たこと、それに対しての回答も良かったこと、しかしながら、何故オリンピック開催がコロナ感染に結びつくかの明確な理由の説明がなかったことなど、良かった点と改善点を示してもらいました。生徒たちからもジャッジに質問が出されるなど、次のラウンドに向けてさらに向上したいという熱意が伝わりました。



波幕(千葉) vs 聖光(神奈川)



ラウンド後のエア握手



清真(茨城) vs 翔凜(千葉)



ラウンド後は談笑でホッと一息

【ラウンド3】

3 ラウンド目の論題は、Children should choose foster parents over biological parents who cannot provide adequate food, clothing and shelter. (子供は、適切な衣食住を提供できない実親よりも、里親を選ぶべきである。)です。Government (肯定チーム) からは子どもたちの成長や将来を優先するべきであるという立場で、いっぽう、Opposition (否定チーム) は実の親からの愛情に特化した議論がなされました。また、養護施設などにかかる税負担や虐待といった、この論題に関連される問題点もそれぞれのチームから挙げられました。3 ラウンド目となると、どの生徒も緊張もほぐれてきたようで、明瞭で聞きやすい声の大きさであったり、適度なボディランゲージも活用できており、オンラインでスピーチをすることのハードはまったく感じさせられないほどの素晴らしいディベートをしていました。



八代(熊本) vs 浅野(神奈川)

【キーノートレクチャー】

本大会でのキーノートレクチャーは、大阪府立大学 地域保健学域 教育福祉学類の教授伊藤嘉余子氏をスピーカーにお迎えし、ラウンド3の論題にあった里親制度に関連する「社会的養護」についてお話ししていただきました。虐待やネグレクトの被害に遭っている子供たちが精神的に、肉体的にどのような影響が生じるのか、などの詳しい説明がありました。また、被害を受けている子供たちだけでなく、どうして虐待をしてしまうのか様々な要因を追求することで、親を含めた社会全体へのサポートをしていくことの必要性についても説明されました。実際、伊藤教授はこれまでに10人以上の里子たちを育てて来られてきたとのことで、大会に参加している生徒たちからも日本における里親制度の遅れや、親からの愛情についての質問が投げかけられました。伊藤教授からは、日本の里親制度が他の先進国に比べて遅れている理由としては、里親になりたい人自体が少ない、国からの里親に対する補助金が他国の4分の1ほどでしかないこと、また、里親になることへの周囲からの差別などの問題が挙げられました。しかしながら、昔に比べると、日本でも里親に対する理解はだいぶ改善されてきているとのお話しでした。



生徒たちの質問に丁寧に答えてくださる伊藤教授

【決勝ラウンド】

いよいよ決勝進出チームの発表です。予選 3 ラウンドの結果、東京都立三鷹中等教育学校、渋谷教育学園幕張中学校が選出されました。決勝戦の論題は、Online learning should be introduced in junior high schools, and students should go to school only three days a week.

(中学校では、オンライン学習を導入し、登校日を週 3 日にすべきである。)です。両チームの各生徒は、多くの生徒や教員たちが見守る中、まったく緊張を感じさせない落ち着いた口調で、内容の論理性、英語力、堂々とした姿勢など、どれをとっても中学生とは思えない非常に素晴らしいスピーチを披露してくれ、決勝戦にふさわしいラウンドとなりました。

決勝進出チーム発表 14:50~14:55

決勝戦

Online learning should be introduced in junior high schools, and students should go to school only three days a week.

中学校では、オンライン学習を導入し、登校日を週3日にすべきである。

決勝進出チーム発表 14:50~14:55

決勝

Table	Government	Opposition	Judge
メイン	東京都立 三鷹中等教育 学校	渋谷教育 学園幕張 中学校	田村 (C) 河野 泉 須田 伊勢 福田 大山

© 一般社団法人バーチャルリーダーシップ開発協会PDA, Parliament's Debate Personal Development Association



決勝ラウンドが終わり満面の笑顔でエア握手

【表彰式・閉会式】

表彰式では、ベストディベーター賞、ベスト POI 賞、ベストジャッジ賞が発表されました。つづいて、決勝ラウンドでの勝敗が発表されました。選ばれた生徒たちは顔をほころばせて喜んでいました。あふれ出る笑顔が、これまで練習を積み重ねてきた頑張りの証に見えました。最後に、中川代表理事より以下の閉会の挨拶をもって、第4回PDA中学生即興型英語ディベート全国大会は幕を閉じました。「率直な感想として、どの生徒も中学生とは思えないくらいのレベルで正直驚いています。会を重ねるごとに、中学生の皆さんのレベルがどんどん上がっているのを感じています。本大会で、特にキーノートレクチャーで知識を深めることが出来たと思いますが、身近にいる社会的養護を受けている人がいれば、もし身近にいなかったとしても、そういった困っている人たちが社会にいるということを、この即興型英語ディベート大会を通じて、考える良い機会となれば幸いです。」



ベストディベーター賞の表彰



POI 賞の表彰



ベストジャッジ賞の表彰



トロフィーの授与

第4回 PDA 中学生即興型英語ディベート全国大会結果

<チーム賞>

- 優勝 渋谷教育学園幕張中学校(千葉県)
- 準優勝 東京都立三鷹中等教育学校(東京都)
- 3位 浅野中学校(神奈川県)
- 4位 栄光学園中学校(神奈川県)
- 5位 栃木県立宇都宮東高等学校附属中学校(栃木県)

<個人賞>

- ベストディベーター賞 (個人名略)
- ベスト POI 賞 (個人名略)

ジャッジ賞 (教員個人名略)

【アンケート（抜粋）】

1. 生徒からの感想

- ジャッジの方々が丁寧に説明して下さったことや、相手チームや、決勝戦でよかったところなどは真似したりして、次に生かしたいと思いました。また、ジャッジの方々の説明がとてもわかりやすかったです。（湘南白百合）
- 初めての大会で、他校とのレベルを知ることが出来、目指す目標ができた。また、議題のトピックについて深く考える機会、自分のレベルを知る機会になり、とても学びにもなった（関西大倉）
- 昼食やディベート実践後の会話で、なかなか交流できない学校と交流するのがとても楽しかったです。またたくさんの社会問題について意見を共有できました。（熊本八代）
- 今回、初めての大会の参加で緊張してしまいましたが思っていたよりも大会の雰囲気柔らかかったこともありリラックスして挑めたと思います。今後の大会にも積極的に参加していきたいなと思いました！今回はこのような状況の中でオンラインを通して大会を開催して頂きありがとうございました！（清真）
- 今回、自分のディベート力について、レベル差を見せつけられた。改善点を沢山知ることができ、勉強になった。論理的に考えるというディベートの目的、それから英語を使うことで英語をただの暗記項目としてではなく言語の一つとして使い慣れる、という目的を同時に果たすことができ、非常に良かった。（広島学院）
- 勝ち負けもあったが、それ以上に新しい観点で論題について取り組むきっかけになったり、他校の生徒さんの良いところを知れたから。（品川女子）
- ディベートにおいて悔しさも嬉しさも色々実感して、多くのことを学べたから。対戦後も他校との make friends の時間を楽しめたから。（神大附属）
- 初めてなのでちょっと難しくてどうすればいいのかよくわからなかったんですけど、たくさん学ぶことができて良かったです。（福岡雙葉）
- 勝ち負けにこだわるのではなく、一つの教育としてのディベートを意識した方針の大会で、人として成長できたと思う。ありがとうございました！！（城ノ内）
- 手強い相手のチームの方々とディベートで、圧倒されつつも楽しみ、多くを学ぶことができました。（聖光）
- 英語ディベートを通して他校の生徒との交流や自分の学校の生徒と絆を深めることが出来たのでとてもいい経験になった（牛久）
- 大会二回目なのですがジャッジの方々がとてもわかりやすくフィードバックをくれたり良いディスカッションができたので良かったです。（渋幕）
- ハイレベルに、語彙力や文法ではなく論理的思考力を競えるのが楽しかった。（三鷹中等）

2. 教員・見学者からの感想

- 九州を超えて、全国の経験豊かな生徒の皆さんとディベートができることは本当に素晴らしいことで、感謝しています。
- オンライン動画したが非常にスムーズで準備が非常に良かったです。
- 毎度、大会運営していただきありがとうございます。予選3試合できて生徒たちは喜んでくれていると思います。今後ともどうぞよろしく願いいたします。
- 円滑な運営、プロの的確なフィードバックは大変良かったです。
- 4回目となってどんどん成長していっている様子がてにとるようにわかった。
- ジャッジ、ラウンド、交流、キーノートレクチャー...全て充実していました！
- 全国の中학생にとって、オンラインでこれほど質の高い大会に参加できること、素晴らしいと思います。スムーズな運営も見事でした。最後の上野千鶴子先生の言葉を紹介いただいたことも胸にしみました。才能と環境がある子供たちへのタイムリーな言葉だと思いました。見学させていただき本当にありがとうございました。

3. キーノートレクチャーについての感想

- 今回、里親についてのディベートの直後にこのレクチャーを聞き、日本の現状と里親に育てられている人目線の意見も知ることができた。見て面白かった。(広島学院)
- 今まで知らなかった里親についてたくさん知ることができてもっと知りたいなと思いました！いい機会になりました！(宇都宮東)
- 里親として10人もの子供を育てられた方のお話を聞く、とても貴重な体験をすることができ、良かったです。(白百合)
- 里親を実際にやられている方のお話はインパクトがありました。(筑駒)
- 里親がもらっているお金が余っていたより少なかったので驚いた。(浅野)
- 自分達の議論を深めるために、とても役に立った。(清真)
- 普段は聞けないような、貴重なお話をしていただいて、とても興味深かったです。特に、どのような順番で子供の行き先が決まるのかは知らなかったなので、とても興味深かったです。(湘南白百合)
- 昨今の里親制度について詳しく解説して下さり、里親制度への理解が深まった。質問に対しても詳細まで答えて下さり、とても分かりやすかった。(広島学院)
- 自分達の価値観を覆し、また自分の境遇の良さを省みることができました。素晴らしい研究者であり、人であり、母親だと思いました。(神戸大附属)

以上